厚岸湖・別寒辺牛湿原の過去数百年の環境変遷と人工改変の影響

大阪市立大学理学研究科生物地球系専攻
廣瀬　孝太郎

要旨

北海道は明治以降，本州からの入植者によって短期間に大規模な開墾がおこなわれ，急激な人工改変を受けました．厚岸湖・別寒辺牛湿原はその中にあって現在も原始的な自然がよく保存されている地域ですが，上流域が農地として利用されたり，沿岸域が宅地となったりしているため，これら人工改変の影響が湿原の環境に変化を与えている可能性があります．

どのような人工改変がどの程度自然に影響を与えているかを見積もることは，湿原の保全目標を設定する上で非常に重要です．また湿原の環境が現在までどのように変化してきたかを知ることは，今後どのように変化していくかを推測する時に非常に重要な手がかりになります．しかし本地域でこのような事柄について詳細に記された歴史文書は存在しないため，本研究では地層の中に記録されている情報からそれを復元することにしました．地層は上に行くほど現在に近い時代に堆積したものですから,それを下から分析していくことによって，調査地域の過去から現在までのその地域の変化をとらえることができるのです．今回私は，地層の構造を保存したまま採取・観察が可能な掘削器具である「ジオスライサー」を用いて，湿原の様々な地点で堆積物を採取しました．その結果，現在同じような環境に見える植生豊かな湿原も，過去に砂が堆積するような水の流れの強い場所であったり，そのような環境と湿原の環境を交互に繰り返していたり，場所によって様々な変化を経てきていることがわかりました．

また採取した試料からはぎ取り標本を作製したため，これらの試料は様々な人が観察したり，今後採取した試料と比較したりすることも容易です．